

「三宝通信」法話

浄土宗 天上山大念寺
住職 大島祥明



十万冊を前に

上梓への経緯

『死んだらおしまい、ではなかった』

私の実感した故人の魂を客観的なデータとして、残しておきたいと思いました。私の主観的な思いこみではなくて、客観的なデータとして信憑性をもたせるためには、二千件のデータが必要だとのこと。もしもこのまま、葬儀をやりつつけて死ぬようなことがあれば、それも本望だと思いました。

多い月には、一か月に二十八人を葬送したときもありました。がむしやらに葬儀をつづけました。

そしてついに、二千人を突破しました。平

成三年の十月のことです。私は四十七歳になつていました。ここにいたるまで、十一年一か月かかりました。

けれどもその年末に、いよいよダウンしてしまいました。葬送した人数は累計して二千四十六人となりました。以来、私自身が葬儀の場に直接行くことはなくなりました。

以後、故人のデータの整理にとりかかりました。やがて十年が過ぎ、二十年が過ぎようとしています。私も六十歳を越えたので、そろそろ発表してもよいかなと思いい、ここに上梓させていただくことになりました。

●平成二十一年九月の初版から、本年六月十五日、第三十一刷まで九万八千冊が発行されました。

●大島祥明住職著『死んだらおしまい、ではなかった』より抜粋。同著の問い合わせ ☎03-3239-6257 (PHP研究所ビジネス出版部)